

風景の句読点

Punctuation of Scene 第16回

雨晴海岸

雨晴海岸

富山湾と立山連峰の絶景と共に楽しむ
(富山県高岡市)

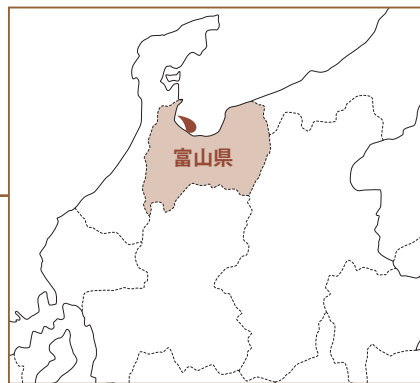
心に残る象徴景

富山県を代表する人気の観光地の一つである雨晴海岸。富山湾越しに美しく連なる3,000mほどの立山連峰の絶景を一望できる場所として親しまれています。富山湾越しにそびえ立つ立山連峰を背景に、頂上に松の木を蓄えた「女岩」が印象的な風景です。

春～初夏は、残雪の立山連峰、冬は気嵐や朝焼け、湯けむりの上がる富山湾と雪山の立山連峰が幻想的な風景を見せ、早朝は、立山連峰から昇る朝日で黄金色に染まる海岸と黒い岩の絶景が広がります。

また、夏は立山連峰を眺めながら海水浴が楽しめる海水浴場として多くの人々が訪れ賑わいをみせます。

「風景の句読点」は、私たちの心に句読点を打ち、思わず足を止めたくくなるような素晴らしい風景について、その成り立ちや魅力の源泉を紹介するコーナーです。



株式会社千代田コンサルタント／社会環境事業部
松元 涼子 MATSUMOTO Ryoko (会誌編集専門委員)



雨晴駅

立山連峰を望める景色は、天気
が良く空気が澄み渡らなければ見
ることのできない運次第の絶景で
すが、何度も足を運びたいなる魅
力ある場所の一つです。

多くの風景・体験を楽し める場所

最寄り駅はJR氷見線雨晴駅で
す。駅員さんに切符を直接渡し改
札を抜けると、中央線のない道が

海岸線に沿って伸びています。この道は越中浜往来と呼ばれ、富山湾に沿って伸びる主
要道として室町時代以前より多くの人々が行き交っていました。砂浜へ続く細い小径に
ある踏切では、立山連峰と海へと伸びる線路が織り成す景色が望めます。踏切を抜け
海岸へ進むと、一気に視界が抜け、一面海が広がり、潮の香りが日常から解放して、ぐっ
と気持ちを落ち着かせてくれます。

海岸線に沿って高岡駅側へ歩いていくと、有名な義経岩や女岩があり、通りを挟んだ
向かいには、船の形をした真っ白な建物、道の駅「雨晴」(2018年完成)が建っています。
海岸線から延びた岩礁には、海岸線に沿って走る列車を写真に収めようと本格的なカメ
ラや、スマホを持った人々が絶えません。

この場所の歴史

雨晴海岸は、万葉集に「洪谿」と読まれた岩礁が多く、白砂青松の景勝の地で、万葉
集の代表的歌人である大伴家持も「馬並めて いざ打ち行かな 洪谿の 清き磯廻に
寄する波見に(馬を並べて、さあ出かけよう。洪谿の清らかな磯辺に打ち寄せる波を見
に。)」と歌を詠んでいます。また道の駅正面に位置する「義経岩」は、源義経が奥州へ
落ち延びる途中、にわか雨の晴れるのを待ったという岩で、地名「雨晴」の由来となった
場所です。

江戸時代には、松尾芭蕉が奥の細道で「早稲の香や分け入る右は有磯海」と句を詠
んだ由緒地でもあり、女岩、義経岩は、「おくのほそ道の風景地」として国名勝に指定されています。

風景の楽しみ方

北陸新幹線の新高岡駅からJR城端線と、JR氷見線
を乗り継ぎ雨晴駅で下車、徒歩5分で雨晴海岸に到着
します。

雨晴駅まで乗り継ぐ様々な鉄道から車窓の風景を
楽しむもよし、海岸沿いの道をドライブしながら、風
景を感じるもよし、レンタサイクルで雨晴海岸の自然
と一体になるもよし、自分だけの風景の楽しみ方の発
見も旅の醍醐味ではないでしょうか。万葉の時代から
愛されてきた風光明媚なこの場所を訪れ、自分だけの
特別な風景を探しに来てみてください。万葉の時代か
ら変わらぬ風景に令和の現在の風景が折り重なった
特別な風景を雨晴海岸が体感させてくれるはずです。



道の駅「雨晴」